



目次

- ◆ 巻頭言 山本政義・・・・・・・・・・01
- ◆ 第46期 定時株主総会報告・・・・・・03
- ◆ 2021年度決算納会開催報告・・・・・・04
- ◆ 北海道作況情報・・・・・・・・・・05
- ◆ 西九州マルタ 青パパイヤ紹介・・・・06
- ◆ オランダ農業の今(最終回)・・・・・・07
- ◆ 故 武田茂さん(山形モグラ会)の特集 12
- ◆ 有参協活動紹介・セミナー・・・・・・・・14
- ◆ 品管ラリアット/マルタの台所・・・・17
- ◆ 雇用就農資金助成金のお知らせ・・・・19
- ◆ 鶴田志郎相談役・ほとりさん/異動・・20
- ◆ マルタファーム活動記録・・・・・・・・22
- ◆ 新 HP 紹介/俳句/読者アンケート・・23
- ◆ 大会案内/編集後記・・・・・・・・・・24



### 今でできることを実践する

代表取締役会長 山本 政義

盛夏の折り、皆様いかがお過ごしでしょうか。先般6月22日にマルタ定時株主総会が開催され、全議案が可決・承認されました。私にとっても初めて

の議長として臨んだ株主総会ではありましたが、株主産地の皆様のご協力のおかげをもちまして無事終了する事が出来ました。この場をお借りして御礼を申し上げます。

今年は各地で例年になく早い梅雨明けとなり、6月としては記録的な高温となるなど、異常気象と呼ばれる事象が数多く発生しています。局地的な豪雨や突風などが連日報道されているのは皆様の知るところだと思います。

北海道北見地方では6月18日・19

日・7月4日と立て続けに降雹被害に見舞われ、玉葱や馬鈴薯など、昨年の大旱魃による不作から、今年こそはといった農家の意気込みを挫いてしまうような被害が発生しました。

玉葱の葉に穴が開いたり茎が折れ曲がったり、はなはだしいものは千切れて圃場に散らばっているなど、被害の程度によっては廃耕せざるを得ない圃場も多く発生していると聞いています。

こういった異常気象と言える現象は、前述の北海道にとどまらず、日本各地で発生しています。長野県川上村は日本一のレタス産地ですが、猛暑と雨の影響で前後の生育コントロールが効かず一斉に収穫時期を迎えたため、需給バランスが崩れ記録的な安値となってしまうしました。産地では価格下落を防ぐため国の制度に従い、生産されたレ

タスの何割かが圃場廃棄を余儀なくされています。生産者にとって作付けをした農産物の出来ばえや収穫作業は、売り上げの多寡にもまして生産意欲を奮い立たせてくれるものです。その喜びの時を迎えることなく廃耕や圃場廃棄をせざるを得なかった生産者や関係者の方々のお気持ちを思うと残念でなりません。被害にあわれた皆様に心よりお見舞いを申し上げます。

もとより農業は自然の影響を直接的に受ける産業であり、近年の気候変動（気温・雨量・風速等）は我々が持つている過去の経験値をはるかに超えて出現してくるため、その対応は大概後手に回ってしまいます。

この異常気象は、一農業者では如何ともしがたい問題ですが、それを引き起こす一つの要因となっている温室効

果ガスの排出は、農業生産現場にも確実に存在していることを私たち農業者は認識しておく必要があります。

自身の話になりますが、私の農場では80ha程の農地を管理していて、その2割に休閑緑肥を作付けし、来季へ向けた土作りと有機質の土壌還元を実施しています。それがどれ程の温室効果ガス抑制になっているのかは分かりませんが、一人ひとりが今できることを実践する事より良い未来に希望を繋げていけたらという思いで続いています。

全国にいらっしゃるマルチ生産者の方々も、今起きている現実を自分事ととらえ、何ができるのかを考えるきっかけにして頂けたらと思います。

